



2013 年:アーカイブ 9 年 回顧年表

本誌では 2005 年を「アーカイブ元年」と唱え、つとめてアーカイブ俯瞰記事の掲載を行ってきた。
これはアーカイブ元年以来の関連記事一覧表です。

| 年 | 本誌 No. | 記事 | 備考 |
|------|---------------------|---|---|
| 2005 | 61 巻頭 | 2005 年をアーカイブ元年に 目標 文書基本法の実現 基礎自治体のアーカイブ整備 | 2004 年、日経新聞の連載「アーカイブ零(ゼロ)年」をうけ、国際資料研究所として 2005 年を「アーカイブ元年」と宣言。4 月、E 文書法施行 |
| 2006 | 65 巻頭 | アーカイブ元年からアーカイブ 2 年へ ①文書基本法の実現②市区町村のアーカイブ整備③電子記録の長期保存必要性主張④日本のアーカイブ活動の国際的発信 | 2005 年から NIRA「公文書管理の法制度検討委員会」(委員長高橋滋一橋大学大学院教授)、内閣府「懇談会」に中間書庫と電子媒体記録の 2 研究会が置かれる 6 月「宙に浮いた年金記録」が約 5000 万件あることが判明 |
| | 66 巻頭 | アーカイブ 2 年 文書基本法の実現に向けて DJI「文書基本法」の見直し | |
| | 69 巻末随想 | アーカイブ 2 年回顧と展望 電子記録の長期保存がアーカイブ 3 年の課題 | |
| 2007 | 70 主張 | アーカイブ 3 年 ブルーシールド国内委員会設立を！→ NDL/JLA『ブルーシールド危機にひんする文化遺産の保護のために』出版 | 国民保護法成立、有事の文化財保護の根拠法。ブルーシールドの根拠であるハーグ条約を批准。 社会保険庁、国民年金記録 5 千万件が宙に浮く、など国会で問題となる |
| | 71 視点 | 今こそ記録管理院を創設せよ (社会保険庁年金記録問題をうけ) | |
| 2008 | 73 視点 | アーカイブ 4 年を迎えて 相次ぐズサン文書管理、問われる「国家の品格」 | 3 月、公文書管理のあり方等に関する有識者会議、発足。7 月、中間報告、11 月、最終報告。 http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/koubun/index.html |
| | 74 巻末随想 | 文書管理法と文書局 | |
| | 75+76 視点 | 国家事業として取り組むべき公文書管理 | |
| 2009 | 77 視点 | 公文書管理法の早期成立を望む(アーカイブ 5 年) | 6 月 20 日、公文書管理法成立 11 月 21 日、外務省が保管する日米外交密約文書の存在が明るみに出る。 |
| | 79+80 視点 | DJI の視点 成立した公文書管理法 | |
| | 81 視点 | 市場となるアーカイブ(アーカイブ 6 年) | |
| 2010 | 82+83 散歩道 | 博物館・図書館におけるアーカイブの存在と MLA 連携 | 7 月公文書管理委員会(座長御厨貴東京大学教授)発足、公文書管理法がイ・ライン制定。 |
| 2011 | 84 巻頭 巻末随想 視点 | アーカイブ 7 年を迎えて 大丈夫? 大学アーカイブ ◆近況・アーカイブ 6 年、日本のアーカイブとアーキビスト | 3 月 11 日 東日本大震災 ツイッターによる救援呼びかけが盛んにおこなわれ、saveMLAK の活動に関心が集まる。被災地で失われた風景等の記憶の保存を目指す、デジタル写真アーカイブプロジェクト、広がる(ヤフーサイト等) 4 月 公文書管理法施行 5 月 外務省外交機密文書の公表 |
| | 85 巻頭 記録集 散歩 | 東日本大震災お見舞い DJI メルトモ速報再録 1.1~3.31 3. 11 大震災とツイッター | |
| | 86+87 | 記録・千葉県九十九里町、旭市飯岡町の津波被害、野田村の図書館、大槌町役場の公文書 | |
| 2012 | 88 巻頭 | アーカイブ 8 年 DJI 記事年表 | 1 月 原発事故をめぐる議事録不作成が問題となる 4 月 国立国会図書館長で、デジタル・アーカイブを推進した長尾真氏、退任。 7 月 ICA 大会、オーストラリア、ブリスベン 10 月 円の対ドル相場が 75 円 32 銭の過去最高値 12 月 政権交代、自民党安倍総理大臣就任 |
| | 89 巻頭 | 今、トレンドは『アーカイブ』 | |
| | 90 巻頭 | 突撃! モンゴルの国立記録管理院+アーカイブセンター(〜92) アーカイブの看板@ベルリン(転載) | |
| | 91 巻頭 | 4 年目を迎えた UNHCR ボランティア | |
| | 92 巻頭 見学記 | 国際連盟アーカイブ in Geneva 福井県立文書館見学レポート DAS Do you know? SAA の ML から | |
| 2013 | 93 巻頭 見学記 視点 | アーカイブ 9 年 DJI 記事年表 ベルンとベルリンの公文書館見学記 アーカイブの世紀がはじまった | 志立託爾氏(元三菱信託銀行(現三菱UFJ 信託銀行)社長、小川千代子の祖母弥永キヨノの甥、1 月 31 日死去、享年 85。 2 月 国立公文書館長公募 |

©小川千代子 2013.02.14

おもな内容

2013 年:アーカイブ 9 年 DJI 回顧年表……………1
ベルン公文書館とベルリンの公文書館見学記 元ナミ…2

DJI レポート No.93 20130224

視点: 21 世紀—アーカイブの世紀が始まった……………4
文献紹介/あしあと/活動/ 巻末ひとこと iPadMini……………6

ベルン公文書館とベルリン公文書館＞見学記

元(ウォン)ナミ

学習院大学大学院アーカイブズ学専攻

2012年8月27日から9月7日まで、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）ジュネーブ本部の資料整理ボランティア作業にメンバーとして参加して2年目。この作業は、今年で4年目を迎えていて、記録管理学会などにも何回か紹介されている。私にとって国際機関でのアーカイブ資料整理は、国際的な資料をどのように整理していくかを体験することと、様々なアーカイブ機関の資料提供や運営についても調べられる大事な機会となっている。何よりベテランのシニアメンバーからのノウハウをそのまま学ぶことは、これからの研究にも大変役に立つと思っている。

UNHCR はもちろん、国連機関が集っているジュネーブはスイスとフランス間の国境都市であり、鉄道駅、国外バスターミナル、空港まで持っている交通の要地である。作業がない週末を自分なりに有効に使える点は、このボランティア参加のいいところでもある。今回は小川千代子先生、上田雄太氏と同行し、作業が始まる前の8月25日（土）にはスイスの首都ベルンへ、作業中の週末の9月1日（土）にはドイツの首都ベルリンに行ってきた。

ベルンに旅立った時、何をするかは中央駅のインフォメーションセンターで決めるつもりだったが、偶然駅の近くで「ベルン州立公文書館」と書かれた道案内図を発見、そこからスイス・ドイツ「公文書館探検」が始まった。韓国や日本より、街中の道案内で公文書館を示している頻度が高く感じられたことも、現地を歩いたからこそ得られる経験の一つであろう。

ベルンではスイス連邦公文書館（Schweizerischen Bundesarchiv、Archives fédérales suisses）と、ベルン州立公文書館（Staatsarchiv des Kantons Bern、Archives de l'Etat de Berne）を、ベルリンではヴィルマースドルフ連邦公文書館（Bundesarchiv Berlin-Wilmersdorf）とベルリン近郊のリヒタフェルデ連邦公文書館（Bundesarchiv Berlin-Lichterfelde）を訪ねた。



道路案内標識、「ベルン州立公文書館」もみえる



＜ベルンのスイス連邦公文書館＞



＜ベルン州立公文書館＞

訪ねた公文書館はどちらも当然ながら週末は開館しておらず、閲覧どころか内部に入ることもできなかった。従って、見学とはいえ、建物の外からアーカイブの建物内部を「覗く」ことしかできなかった。

スイスのベルンでは、どちらの公文書館も坂の上に位置している。それに連邦公文書館は「Archivstrasse: 公文書館通り」と名づけられた通りに面していて、その外観はヨーロッパの建物様式に見えた。ドイツ・ベルリンでは旧東ドイツの雰囲気の中で、市内でも郊外でも、平地の十分な空間に四角い政府機関の建物という硬い雰囲気をそのまま表していると感じた。



ベルリン・ヴィルマースドルフ連邦公文書館



ベルリン・リヒタフェルデ連邦公文書館

それぞれの公文書館の開館時間は異なるが、ベルリンの場合、主に月～金曜日の間に一般公開している。ベルンの場合、連邦公文書館の閲覧時間は火、水、木曜日、ベルン州立公文書館火～金曜日を一般公開として設けている。週末を正確に守るヨーロッパであるため、週末開館は期待もしなかったが、月～金曜日までの閲覧時間は設けているのではないかと思った。しかし、必ずしもそうではなかった。連邦政府や各自治州、自治市などにも公文書館や様々なアーカイブズが定着しているヨーロッパでも、一般利用（閲覧）の日時は各公文書館の状況に合わせて設定していることを知った。これは公文書館が利用者数を気にしたり、公文書館での普及事業の目的が公文書館に利用者や展示の見学者などの形で出来るだけ多くの来館者を得ることに傾いている韓国や日本の状況にと比べ、いろいろと考えさせられる。

ベルンとベルリン

ついでに、ベルンとベルリン。名前が似ていると思ったら、どちらも都市名がドイツ語の「bär」と関連し、ベルンのほうが男性名詞、ベルリンのほうが女性名詞であるとのことだった。これは各都市の紋章にも表現されている。ベルンには市内に熊公園があるほど熊の都市であり、ベルリンは市内どこからも手を上げている熊像をよく見られるほどの熊の都市である。



左:ベルンの市章 右:ベルリンの市章、クマの姿の違いが見えるでしょうか。

残念ながら今回は閲覧室や書庫の見学はできなかった。文書館は研究資料を探しに行ったり、自分がほしいものを探しだすために訪ねるところである。何かの目的を持たないと行かない場所であるため、それ以外の目的、例えば娯楽目的で訪れるということは少ないと思う。しかし今回の公文書館「探検」では、都市の景観を楽しみながら、自分の足で公文書館を探し、建物の外から文書館の中を覗き見ること、公文書館自体が楽しみの対象になることを体験から確認できた。

限られた海外ボランティア作業の時間の中で、ベルンとベルリンの公文書館の地理的な雰囲気を感じながら、外から中を覗き見るだけでも、私は十分楽しかった。この体験は、

ボランティア作業を一層楽しむことと、海外に来た機会を活用し、自分の研究テーマでもある世界の地方公文書館と地域アーカイブ活動を考えるのに大いに役立ったと確信する。来年もぜひ UNHCR ボランティア作業に参加し、休日には楽しい文書館探検に出かけたいと思う。

21世紀—アーカイブの世紀が始まった

東日本大震災

2011年3月11日、東北地方は大地震とともに、1000年に一度ともいわれるほどの大規模な津波が襲来した。津波は南は千葉県の上総九十九里町や旭市から北は北海道函館港までを文字通り洗い流し、死者、行方不明者は1万9千人弱に上った。

津波襲来の様子は、各地で動画で記録され、YouTubeには多数の動画が投稿された。リアルタイムでだれもが津波の襲来の動画を撮影できるだけでなく、その動画をインターネット上に投稿すると、世界中からこれにアクセスする人びとがいた。これは、デジタル・ネットワーク社会ならではの現象だった。そこから、画像記録をネットワーク上に投稿し、共有化するというプロジェクトがあちこちで始まった。ヤフーの写真保存プロジェクトもその一例である。ツイッター、フェイスブックなどのSNSソーシャル・ネットワーク・システムは、従来型の電話やファックスといった通信手段がマヒ状態になった時に威力を発揮し、急激に浸透した。但し、その普及状況は、年齢層によって大きなばらつきがある模様だ。

記録を残す—自発的なトレンド

復旧作業に従事した自衛隊員らにより、がれきの中から泥まみれになったアルバムや写真や子供のランドセルなどなど、思い出の品々が拾い出され、パソコンの記憶装置を生き返らせる仕事をする人、水にぬれた書類や本を凍結乾燥して元に戻そうとする企業なども現れた。この状況を忘れたくない、そう思った人は世界各地でデジタル写真ビデオでその状況を記録した。人々は自発的に記録を作成し、記録を残そうとしたのである。

文化財レスキュー事業

主として津波により多数の図書館、博物館等もまた被災した。被災した文化財等を救うため、2011年4月、文化庁が中心となり、文化財等の救助事業がスタートした。

フクシマ 3.12

3.11の地震と津波という自然災害は、福島第1原子力発電所に不具合をもたらし、4基ある原子炉のうち3基に目に見える損傷が生じた。地震・津波の翌日の3月12日、福島原子力発電所の原子炉を覆った建屋が次々と爆発し、みるも無残な姿がテレビに映し出された。

この時は、津波であらゆるモノが洗い流され、いくつかの自治体では役場が流され、首長の死亡が伝えられるなど、大混乱のさなかであった。菅総理大臣が悲愴な面持ちで原発周辺20キロ圏の住民に避難を呼びかけ、NHKでは水野解説委員が事態は極めて深刻であると発言した。原発の事故は被災地域に放射能汚染をもたらしたのである。世界は、このニュースに震え上がり、日本国内に

いた欧米の人々の多くは急遽本国に帰還し、あるいは九州あたりに逃げ出した。日本人もまた、原発から半径20km、30km以内の住民は緊急避難を余儀なくされた。放射能の測定が強化され、各地で放射能汚染が観測されるようになった。

放射能汚染の恐怖

放射能汚染は、それ自体の危険性もさることながら、それ以上に人びとの気持ちを不安にさせた。その結果、汚染地域で栽培されていた農作物や、その地域の牧草を食べた家畜、海に流出した放射能による海洋生物にまでも、放射能汚染が広がっているのではないかとする社会的な不安が広がった。これは明らかな根拠ではなく、漠然とした不安に基づく不安であり、その不安から農作物、家畜、魚介類が汚染されているかもしれない、とする風評が広がった。ものは売れなくなった。

国内の農作物や魚介類、家畜などが放射能で汚染されているかもしれない、という不安混じりの情報は、風評となり、農作物や魚介類、家畜などが売れなくなった。放射能検査で測定値によって、販売を禁じられるケースも見られるようになってきた。国内的には売るものが無くなり、市場が不活発になっていく。そのなかで、日本の国債の格付けが引き下げられた。当然、経済は低迷することとなった。2011年3月以来、日本国はこのような「負」の螺旋の中で、国力が低下し続けているとみてよいだろう。これから日本はどこへ行くのだろうか。日本が日本として存在し続けるなら、日本の公文書を保存することは欠かせない。以来約2年が経過した。

この国難への対処—記録し、記録を残す

東日本大震災によりもたらされた自然災害及び原発事故被害は、日本にとって文字通りの国難である。この国難のとき、私たちは何を考え、どのような行動をとるべきなのか。

この問いに対する一つの回答は、「記録し、記録を残すことで、この災害を将来に伝える」という考えだと言ってよい。災害前の「平和だったころ」の記憶と、災害そのものを、将来に伝えようとするプロジェクトは、現在さまざまな組織が進めている模様だ。そのプロジェクトの名称に「xxアーカイブ(ズ)事業」のように、「アーカイブ」が含まれている者が見られる。そして、「アーカイブする」「アーカイブを構築する」という表現もしばしば見聞きするようになった。画像資料はもとより、図書館、文書館、博物館の所蔵資料をデジタル画像に作り直し、そのデジタル画像情報をネットワークを用いて共有化するのが、ここでいうアーカイブする、アーカイブを構築するという事業なのである。

アーカイブ、デジタル・アーカイブ

アーカイブとは、デジタル画像データの集合を

作ることを意味する。2010年ごろまでは、デジタル・アーカイブ、と称されていたものが、「デジタル」抜きで「アーカイブ」だけでその意味をあらわすようになった。記憶の（デジタル）記録化とデジタル保存は、今爆発的な数を数えている。振り返れば1923年の関東大震災、1995年の阪神淡路大震災、どちらもその災害を記憶にとどめおこうとするプロジェクトが官公庁主導で進められ、国立公文書館や兵庫県公館県政資料館（兵庫県の公文書館）がそうした記録を現在も保存している。これは、紙媒体の記録である。この他、人と防災未来センターでは、モノも含め民間資料を大量に収集保存している。

東日本大震災では、官公庁主導の記録作成を待つまでもなく、誰もが思いつく限りの方法や手段を使って、デジタル・アーカイブを思い思いの形で作成している。デジタル時代のアーカイブが個人レベルや民間レベルでどのように作成・保管・保存されていくのかは、この震災関連アーカイブたちが今後どのように生き延びていくのかをみることで、おのずから明らかになるだろう。残したいという意味と、残すという活動の実施、実効性は、紙の時代のアーカイブでは残したいという意味を持った組織や個人の影響力がいつまで及ぶのかによってきた。デジタルの現代、未来はどうだろう。注意深く見守っていきたい。

「デジタル・アーカイブ運動」のうねり

2013年2月、なお追記する余裕を得たので、3.11以降の「アーカイブの爆発」をめぐり、さら

に最近の状況に対する筆者の感想をここに記しておきたい。

今、デジタル・アーカイブによる記憶の記録化は、デジタル・アーカイブを推進する国政方針による予算措置に支えられ、多くのプロジェクトが見られるようになってきた。これは、新しい傾向である。「今」を記録し、その記録を未来へのメッセージとして残していこうとする営みが、急激に一般化したところが「新しい」と筆者は考える。

阪神淡路大震災では、その震災の記憶を忘れることなく未来に継承するために、人と防災未来センターが設立され、神戸市内には防災に関するいくつもの国際機関が集約されるなど、「防災」をキーワードとした公的組織・機関が整備された。神戸大学を中心に、歴史資料ネットワークが被災史料の救済運動を展開し、災害時に救済すべき対象物に歴史資料を含めるという基本的な活動方針がじわりと全国の歴史研究者らのあいだに浸透した。

これに対し、3.11では、誰もがデジカメやビデオを片手に、発災時からその様子を画像情報で記録しようとする動きが一般的になった。これをデジタル・アーカイブと称し、その画像をウェブ上で共有するための様々な仕組みが無料で提供された。こうした基盤の提供に促されるようにして、3.11以降は市民参加型の「デジタル・アーカイブ運動」とも言うべき活動のうねりが出てきたといっても過言ではないだろう。これが、従来型の公文書館とどのように融合していくのか、今後の動向に興味深々である。（小川千代子）

●◆▼やぶにらみ文献紹介【●図書◆論文▼逐次刊行物■その他】

●大英博物館の舞台裏

この本に出会ったのは、大学図書館。偶然の出会いだった。1980年代に刊行され、日本語訳も1994年に出ているので、決して新しくはない。しかし、タイトルにある「舞台裏」という言葉に惹かれて手にとった。パラパラと目次を見ていったところ、博物館の記録の管理に関する一章があるではないか。これがとても嬉しくて、丁寧に読んだ（その章だけ）。博物館、それも大英博物館の場合は、所蔵資料の種類ごとに様々な「カタマリ」があり、これを「コレクション」と呼んでいるらしいこと、コレクションごとに収蔵場所が異なること、などが読み取れた。それと共に、収蔵品の目録は、資料が博物館に入ってきたら「その日のうちに」記録しなさい、そうしないと忘れてしまうから、という博物館における記録の作成と管理の方法が具体的に記されていることを発見した。

今年から「博物館資料保存論」を講じることになったが、いくつか目を通したテキストはいずれ

も温湿度管理、IPMなどの環境管理に主眼が置かれていて、肝心の博物館資料そのものの保存のための「論」を読み出すことができず、悩んでいた時この本に出会った。まさに天啓。コンピュータによる所蔵資料情報のデータベースをシステムから策定しようとしていた1980年代大英博物館の「舞台裏」も含め、博物館の職員たるもの、どんな業務を担当するのが、とても具体的によくわかる。とりわけ気に入ったのが、85-86頁掲出の資料登録簿の図である。こういうことを地道に積み重ねていくと、博物館の資料が管理できる、ということがわかる。手を抜かないこと、すぐやること、ずっと続けること、これで博物館の資料の所蔵登録と所在情報管理が可能になる。確かな所蔵資料管理は運営は地道な事務作業によってのみ実現されるのだという著者の主張に心底賛同し、大拍手を送りたい。頑張れ、日本の学芸員！
デイヴィッド・M・ウィルソン著、中尾太郎訳、平凡社、1994年発行（ち）

DJI国際資料研究所の主な活動 2012年11月16日～2013年2月23日

<執筆>

・『DJIレポート』No.93 20130224 発行
www.djichiyoko.com に PDF 掲載

<近刊予定>

・「東京大学史史料室のアーカイブ構築」東京大学史史料室ニュース No.50
・東京学芸大学史学会『史海』歴史資料の価値判断について～東日本大震災と資料救助を考える～
・『アーカイブを語る』電子書籍、アーカイブ研究会 2008 成果物、www.djichiyoko.com にリンクあり。
・『ICA アーカイブの利用の原則』電子書籍、2012 年度アーカイブの世界授業成果物 PDF www.djichiyoko.com にリンクあり。
・『国際連盟アーカイブのガイド』電子書籍、2012 年度中央大学大学院授業成果物 PDF www.djichiyoko.com にリンクあり。
・大来佐武郎文書整理中間報告書コンサル・レポート

<出講>

11月7,14,28日、12月5,12,19日、1月9日 鶴見大学文学部「記録管理論」
11月1,8,22,29日、12月6,13,20日、1月10,17,24,31日 東京大学大学院情報学環「アーカイブの世界」
11月6,13,20,27日 12月4,11,18日、1月8,15,22,29日、2月5日 東京学芸大学「博物館資料保存論」
12月12日 公文書管理検定対策講座、NOMA、東京

<定期訪問>

11月22日、12月13日、1月11日 東京大学史史料室

<見学>

11月18日 寒川文書館、東京大学大学院情報学環「アーカイブの世界」受講生
11月20日 東京学芸大学大学史資料室、東京学芸大学「博物館資料保存論」受講生、東京
11月24日 東日本大震災とアーカイブ 東京大学福武ホール、本郷
12月2日 板橋区公文書館見学、鶴見大学文学部「記録管理論」受講生
12月8日 歌声発表会、野田市南部小学校、千葉
1月17日 国際マイクロ写真工業社史料編纂所内撮

■巻末ひとこと・iPad ミニ入手！

昨年4月、スマホを入手した。ケータイに比べ画面が大きいと思ったのだが、PCほど大きくはない。もっと画面が大きいのが良いと思い、最近iPad miniを手に入れた。

大きなスマホのような印象。ミニだからやや軽量、画面はケータイよりはよほど大きい。93年の最初のパソコンはMacだったが、95年にWindowsを買ってからずっとWindowsだ。で、

影ラボ、東大大学院情報学環「アーカイブの世界」受講生

1月18日 藤女子大学研究室見学、札幌
1月19日 ピアノ・エレクトーン 合同音楽発表会 中村楽器指導者友の会、柏市民ホール、千葉

<参加>

11月19日 記録管理学会理事会、東京
11月18日 清掃デー、防災訓練予行演習、辻堂東海岸緑の広場他、藤沢
11月19日、12月7,21日 1月16日 2月20日、大来文書整理、紀伊國屋書店、東京
11月20日、12月18日、1月29日、2月22日 中央大学LON(国際連盟アーカイブ)研究会、多摩キャンパス他
11月22日、12月6,20日、1月24日、2月11日 アーカイブ研究会 2008、本郷
11月24日 公開フォーラム「震災の記録をどう活用するか：膨大な映像記録を中心に」東大福武ホール、本郷
11月25日 藤沢市防災訓練 八松小学校、藤沢
11月30日 原発国民投票署名活動、藤沢
12月1日 千種台39会 シェ・ミカワ、赤坂、東京
12月6日 虫干しクラブ、東京
12月9日 旭丘高校19期忘年会、クラウンホテル、名古屋
12月17日 町内会女子会、藤沢
1月14日 町内会お楽しみ会(ネクタイポーチ)、藤沢
1月20日 辻堂東海岸3丁目防災まち歩き、藤沢
1月25日 寒川文書館運営審議会、寒川、神奈川県
2月15日 全史料協臨時委員会、八雲クラブ、東京
2月21日 全史料協役員会、京都府立総合資料館
2月23日 辻堂東海岸3丁目町内会役員会、藤沢

<その他>

11月16日 面接 藤女子大学 札幌
12月25日 面談 東京大学史料室長、東京

Mac はとても久しぶり。

喜び勇んで店舗に機械を受け取りに行った。店舗の若い店員に「iPad miniを受け取りに来ました」と言ったら、丁寧に「それはsoftbankさんですので、あちらのお店です」と教えられてしまった。確かに、その店舗は私の行きつけの、ドコモショップだった。ハテ、この機械、私にとって新しい世界への「窓」になるだろうか。(ち)

